



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA

スポンサー 大阪クラブ DBC 近江八幡クラブ 広島クラブ

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

2025 年
10 月
930 号
(79 期 4 号)



2025-2026 年度 主題

西宮クラブ会長 小野勅紘 「メンバーの個性を生かして最大限にクラブ活動を楽しもう！」
六甲部メネット委員長 濱崎進一 「協働活動の強化、交流活動の展開」
六甲部部長 柳敏晴(神戸西) 「温故知新」 「六甲部にウエルビーイング」
西日本区理事 中井信一(奈良) 「世界中の仲間と YYY ライフを楽しみましょう！！」
「あなたに寄り添う。あなたを忘れない。」
アジア太平洋地域会長 田上正(熊本むさし) 「信念と愛をもって行動しよう」
国際会長 エドワード・オン(シンガポール) 「信念、愛、行動」

10 月 西日本区強調活動

ASF YMCA への理解を深め、未来に向けた協働を！

山本 一博 Yサ・ユース事業主任(京都パレス)

西宮ワイズメンズクラブ 10 月第一例会

日時：10 月 10 日(金) 19:00~20:30
場所：西宮 YMCA 3 階
ドライバー：小野メン 丸山メン

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 開会の挨拶・点鐘 | 小野会長 |
| 2. ワイズソング | |
| 3. 聖句朗読 | 森川メン |
| 4. ゲスト紹介 | 小野会長 |
| 5. 食前感謝 | 小野会長 |
| 6. 会食 | |
| 7. 小澤総主事のお話 | ⇒ 予定変更 内容未定 |
| 8. お誕生日のお祝い | |
| 9. ワイズニュース | 小野会長 |
| 10. YMCA ニュース | 森川メン |
| 11. 閉会の挨拶・点鐘 | 小野会長 |

10 月誕生日のお祝い

- 9 日 西山茂夫メン
9 日 広瀬敦子メネット
12 日 重村仁メン

今月の聖句

「善を行うことに疲れてはいけない。
失望せずにいれば、時が来れば刈り取ることに
なる。」 (新改訳)

ガラテヤ書 6 章 9 節
森川俊介担当主事選

9 月出席状況 (在籍会員数 20 名)

第一例会 (12 土)		第二例会 (26 金)	
メン	12 名	メン	9 名
メネット	0 名	メネット	0 名
ゲスト	3 名	ゲスト	0 名
MU	0 名		
合計	12 名	出席率	60%

ファンド

	9 月	累計
ニコニコ	¥2,000	¥5,000
BF	¥3,500	¥7,600

会長 小野 勅紘 直前会長 濱崎 進一 副会長(次期会長) 副会長 万本 敬一
書記 浅野 純一, 山口 吉郎 会計 重村 仁, 濱崎 進一 監事 阪根 新, 丸山 悦治 担当主事 森川 俊介

会長メッセージ

会長 小野 勲紘

—ワイズは“オリンピック”—？ —参加することに意義がある—

近代オリンピックが1896年にご存知クーベルタン男爵の呼び掛けで復活した時の、キャッチフレーズは「オリンピックは参加することに意義がある」と男爵が高らかな宣言でスタートしました。



力のない者にとっては打って付けのありがたいお言葉。誰もがそう信じたことでしょう。それが今日オリンピック開催には膨大な資金が必要であるし著しい商業化が進んでいます。全てアマチュアのみ限定されていたが、それも魅力に欠けるということで、プロも参加を容認して、ますます商業化は否めません。今やオリンピックを誘致しようという国も減ってきています。

南部選手らが三段跳びで金メダル3大会連続獲得で、まさに日本のお家芸とも言われたのは今は昔。体力に劣る日本人は体格のいい外国選手の後塵を拝して久しいものがあります。しかし、しかしですよ。あのクーベルタン男爵の言葉を思い起こす時、誰でも出れるのだと思うのは無理になってきました。「参加標準記録」というものが設定されて、その記録さえ達成出来ないのが現在の陸上競技などの鉄則になっています。それだけハードルが高くなっています。何とか以前のような誰でも出場出来るようにならないのか？しかし、それには運営方法や資金に係り無理なのか。

ワイズも「参加することに意義がある」

私は以前から、これを信じて疑わずにきました。しかし、昨今西日本区大会のゴルフコンペである入会間もなく経験が浅く若いメンバーが、暴言を吐き不適切な言動により、クラブ除名もしくは自主退会という事態が発生しています。

性善説でいえばかつてはそんなことは起こり得ないであろうと、皆暗黙の了解の上に成り立っていました。しかし、現実には起ってしまいました。まことに後味の悪い結果に我々は言葉を失い茫然として正しい対処法や末路に迷っているような状況でしょうか。

信頼あるワイズメンがそのような言動を起こす

とはまさか起らないであろうという慢心もあったかも知れません。新入会員の導入教育やお互いの信頼関係を強固にすることは吝かではありませんが、我々はこのクーベルタン男爵の「参加することに意義がある」という言葉の上に条件付けをするならば、段階的に善良なワイズメンに育つように見守っていくことに加えて、信頼関係も強固なものにしたいものです。

でも、でもですよ

ワイズも「参加することに意義がある」として、多くのイベントに参加して交流を深めていきたいものです。どんなワイズメンにもそれを達成する能力や資質があり、最初から持ち合わせているものではなく、幼児から大人への成長のように育ていくものだと思て疑いません。なぜなら自分自身もそうであったからです。

—*—*—*—*—

私事ですが、愛媛県松山市において14年間連続で正岡子規顕彰俳句全国大会に投稿してきましたが、ずっと選外を続けて、火の目を見ることがありませんでした。最初の年の2012年にはDBCの近江八幡クラブの小西逸子ワイズをお誘いしたところ、彼女は初めてなのに入選された時会場の松山に同行したことを覚えています。

なのに、なのにですよ、私には能力がないのかどうしてなのかと、自問自答しながら苦節14年。何と今年晴れて入選の報に9月23日松山は正岡子規博物館講堂での表彰式に参加してきました。その時の作品が以下のものです。

高跳びの足が蹴り上ぐ雲の峰

季語は「雲の峰」で入道雲のことです。昨年パリ五輪で走り高跳びの赤松選手が88年ぶり(1936年の前畑ガンバレのベルリン大会以来?)に5位(2m31cm)入賞という快挙。最近東京で開催の世界陸上でも赤松選手は出場しましたが、残念ながら8位(2m13cm)でした。

走り高跳びは、以前は「正面飛び」から「ベリーロール」という飛び方を経て、現在は「背面飛び」が全盛です。背面飛びの場合、背中から入り、足を含む下半身を跳ね上げて蹴るようにバーを越えます。それがパリの青い空に浮かぶ白い雲の峰を

蹴り上げているようだというもの。

表彰式を終えて、考え直してみると、蹴るのだから「足」に決まっているので、「高跳びで空を蹴り上ぐ雲の峰」はどうかと思ったが、雲の峰だから空に決まっていると思い、以下が校正句です。

「高跳びでパリを蹴り上ぐ雲の峰」

いかがでしょう？パリ五輪であると判るでしょう。

9月第一例会報告

浅野 純一

9月12日(金)夜7時より例会を行いました。今月は部長訪問で、柳敏晴六甲部長、加茂周治会計担当にお越しいただきました。柳部長の部長主題は「温故知新」。YMCA の根本である「SPIRIT・MIND・BODY」の三角形に示されるように、キリスト教精神を基盤とした、精神・知性・身体のバランスの取れた若者に育つように支援する「ウェルビーイング」を六甲部の活動で行っていききたいと話されました。



次いで、浅野純一メンが「仏教の教え」と題するスピーチを行いました。仏教とは「仏(仏陀・如来)の教え」ということです。仏教は前5世紀のインドで生まれました。開祖はゴータマシッダルタ(釈迦)です。釈迦は29才の時に仏になりました。といっても亡くなったわけではありません。真理を悟ったのです。仏とは「人生の真理を悟った人(覚者)」という意味です。他の宗教にある神とは異なります。なお、釈迦は81才で入滅しました。ところで、釈迦が悟った真理とは「生(しょう)老病死」を受け入れることです。生きることは一切が苦しい。肉体が



あるゆえの苦しさ、意思を持つことによって生じる苦しさ、そして「老病死」の苦しさは言うまでもありません。それらを一切引き受けたときに仏(覚者)となるのです。しかし、煩惱にまみれた我々人間は仏になる、つまり心穏やかにはなれません。そこで新しい仏教が、紀元前後ごろに起こります。もっと簡単に人々は救わなければならない。それが大乘仏教です。仏舎利信仰(お釈迦さんの遺骨を納めたところ。五重の塔など)、経典(般若経・法華経など)をひたすら詠むことによって救われる、そして阿弥陀如来、薬師如来、大日如来などに帰依することです。なお、「南無」というのは帰依するということです。大乘仏教はチベット、中国、朝鮮を経て、6世紀ごろにわが国に到来しました。



スピーチの後、お誕生日のお祝い(出席された岩田メン、岡田メン)、YMCA ニュース、ワイズニュースで終わりました。参加者は柳六甲部長、加茂会計、クラブからは浅野、岩田、岡田、小野、濱、濱崎、廣瀬、藤原、万本、森川、山口、山本の各メン、芦屋クラブから田邊会長が参加されました。

YMCA ニュース

担当主事 森川 俊介

残暑厳しい毎日でしたが、少しずつ気温もさがり、秋らしい日々となり、じっくり取り組むにはいい季節となりました。西宮 YMCA では夏の評価を行い、次年度に向けての準備を開始しました。また、平行

してこどもカーニバルの準備や保育園、育成センターでは日々の関わり、行事の計画・実施と慌ただしい日々を過ごしています。

こうした日常の中で、私たちは目の前の課題に追われがちですが、ふと立ち止まり、少し先の未来を想像することも大切です。子どもたちが笑顔で過ごす姿、仲間と共に作り上げるイベントの成功、そして地域に根ざした活動が未来にどうつながっていくのか。そんな視点を持つことで、今日の一步がより意味深いものになります。例えば、こどもカーニバルの準備は、単なるイベントの成功だけでなく、子どもたちの心に残る思い出や、西宮 YMCA に携わる人が部署や役割を超えて絆を深める機会となるでしょう。日々の忙しさの中でも、未来への種まきを意識しながら行動することで、私たちの活動はより豊かな実を結ぶはずです。秋の清々しい空気の中、ぜひ皆さんも一歩先を見据えた活動のアイデアや思いを共有し、共に未来を創っていきましょう。

行事報告：

香櫨園×大手前大×YMCA 甲山デイキャンプ

9月28日、地域連携の一環で、大手前大学坂元ゼミの学生10名（＋坂元先生）と香櫨園小学校の子どもたち33名とで甲山キャンプ場でデイキャンプを行いました。昨年度から繋がりがあるゼミで、今年は次の代の学生たちとともに、6月に顔合わせをしてから、数回ミーティングを重ねて準備を進めてきました。活動プログラム・マネジメント・子どもの対応の各チームに分かれて取り組み、日程調整や施設とのやりとり、プログラム内容の計画などは、チームのリーダーが主導して行いました。

最初は学生も子どもたちも緊張していましたが、学生たちが子どもたちに歩み寄って目線を合わせて関わっており、地域の大学生と地域の子どもたちが交わる姿はとても良い雰囲気でした。引き続き、11/29（土）のこうろえん祭り（小学校の地域行事）に向け

て学生たちと協働して企画を進めていきたいと思っています。



今後の予定 【ワイズ/YMCA】

10月10日(金) 第一例会

10月11日(土) 九州部部会 ホテルメルパルク熊本

10月24日(金) 第二例会

10月25日(土) 西中国部部会 広島 YMCA

11月01日(土) 9:30~12:30 子どもカーニバル
西宮 YMCA

11月08日(土) 瀬戸山陰部部会 由志園(松江市)

11月14日(金) 第一例会

11月15日(土) 六甲部部会 神戸クラウンパレスH

11月23日(日) チャリティーラン しあわせの村

重村 仁ワイズお見舞い

会長 小野勅紘

前期末から体調不良のために、長期欠席をされている重村仁ワイズを8月31日（日）午後ご自宅に伺いお見舞いいたしました。

お話を伺うと以前から優れなかった体調がいよいよ深刻になり、今後ワイズの活動を継続することは困難であるとのことでした。何事も健康あってのワイズ活動でもあるので、お気持ち尊重して、ひとまず退会との結論に至りました。



退会手続きは前期末の12月末を以って退会とすることにしました。重村ワイズの永年のご貢献に感謝いたします。



シロオニタケ
藤原ワイズ撮影

編集後記

ブリテン委員長 山口 吉郎

★重村ワイズがひとまず退会とのこと、寂しくなります★体調を整えられたら、また「青空はれる君」や「大黒屋仁兵衛」とともに西宮にお戻り下さい★